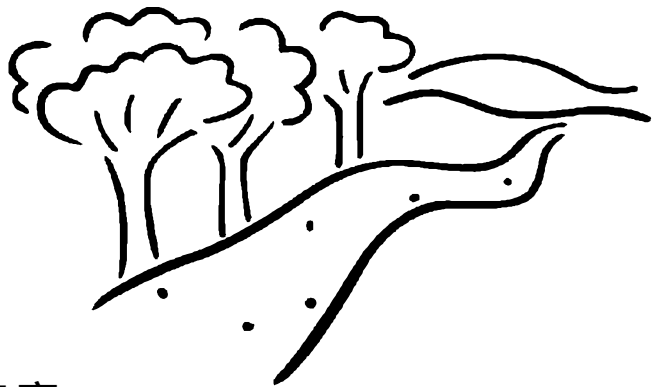


市民満足度調査 アンケート報告書



平成 17 年度

南アルプス市 企画部 企画課

目 次

調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査仕様	1
4. 回収結果	2
5. その他特記事項	2
調査結果 - 基本属性 -	3
F1 性別	3
F2 年齢	4
F3 家族構成	5
F4 職業	7
F5 お住まい	9
F6 居住年数	10
調査結果 - 満足度の概況 -	11
1. 市民の満足度	11
2. 市民の役割	16
3. 前回調査との比較	18
調査結果 - 区分ごと -	21
区分1 合併後の市内他地区との一体感について	21
区分2 教育に関する満足度について	22
区分3 地域活動に関する満足度について	24
区分4 行政情報に関する満足度について	26
区分5 市民生活に関する満足度について	28
区分6 居住環境に関する満足度について	30

区分 7	産業基盤整備に関する満足度について	・・・	3 2
区分 8	医療・福祉に関する満足度について	・・・	3 4
区分 9	行政サービスに関する満足度について	・・・	3 6
区分 10	産業の振興に関する満足度について	・・・	3 8
区分 11	自然・環境に関する満足度について	・・・	3 9
区分 12	市民の役割に関する取組み具合について	・・・	4 0
区分 13	行政の役割に関する取組み具合について	・・・	4 2

調査の概要

1. 調査の目的

平成 15 年（2003 年）4 月 1 日に南アルプス市が誕生し、本年度で 3 年目を向かえた。

市民本位のまちづくりは、市民の意向が十分に反映され、市民の目線で取り組みを行うことである。市民の意向を様々な角度から把握するための、基本的かつ重要な情報を収集するため、本満足度調査を実施する。

今後も隔年実施により経年データを蓄積し、時系列的な市民の意識の変化を、より深く調査していく。

2. 調査の内容

設問分野	設問数	調査内容
回答者の属性	6	性別、年齢、家族構成、職業、住居の所在地区、居住年数
市民の満足度	5 3	市政に関すること
市民の役割	4	まちづくりに対する、市民自らの取り組み
行政の役割	5	まちづくりに対する、市民との協働による取り組み
うち前回と同じ設問	3 0	市政に関すること

* 前回調査は平成 15 年 10 月に行った。

3. 調査仕様

仕様項目	仕様
調査地域	南アルプス市全域
調査対象者	市内に在住する 18 歳以上の男女
調査基準日	平成 17 年 7 月末日現在
標本数	1,500 人
抽出方法	1,500 人 / 層化二段無作為抽出法 市内を 6 地区*に分割し、基準日における各地区の人口（母集団）の大きさに応じ標本数を配分し、住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配付・回収
調査期間	平成 17 年 9 月 7 日～同年同月 28 日

* 6 地区とは八田地区、白根地区、芦安地区、若草地区、櫛形地区及び甲西地区である。

図表 - 1 人口と発送数の内訳（単位：人、％）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	合計
人口(今回)	7,421	19,827	489	12,105	19,581	13,209	72,632
人口(前回)	7,296	19,565	516	11,818	19,345	13,118	71,658
増 加 率	1.7	1.3	5.2	2.4	1.2	0.7	1.4
構 成 比	10.2	27.3	0.7	16.7	26.9	18.2	100.0
発 送 数	173	378	57	250	374	268	1,500
構 成 比	11.5	25.2	3.8	16.7	24.9	17.9	100.0

* 人口は今回調査時：平成 17 年 7 月末日現在、前回（平成 15 年度）調査時：平成 15 年 9 月 1 日現在

4. 回収結果

有効回答 631 件（回収率 42.1％）

図表 - 2 回収数の内訳（単位：人、％）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	不明	合計
回収数	69	148	18	120	151	110	15	631
構成比	10.9	23.5	2.9	19.0	23.9	17.4	2.4	100.0
回収率	39.9	39.2	31.6	48.0	40.4	41.0	-	42.1

5. その他特記事項

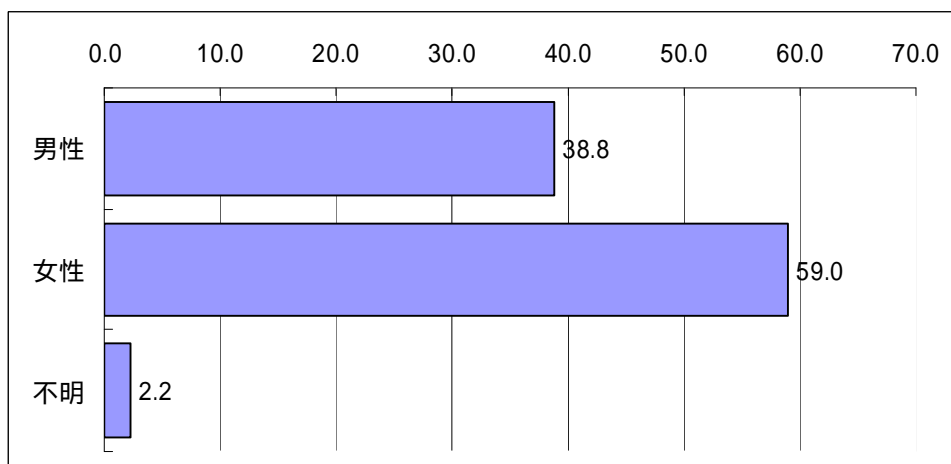
* 本文及び図表の百分率（％）は、小数点第 2 位を四捨五入した結果、合計数値が 100％にならない場合がある。

* 本文中の（n）は回答者総数を示す。回答を得られなかった回答者は（不明）として示した。

調査結果 - 基本属性 -

F1 性別

図表 F1 - 1 性別 (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

回答者に性別を尋ねたところ、「男性」は 38.8%、「女性」は 59.0%であった。なお、「不明」が 2.2%あった。

アンケート調査の対象者抽出にあたり、平成 17 年度 7 月末日現在の南アルプス市の人口における性別構成（男性 49.3%、女性 50.7%）を基に、1,500 人（男性 49.2%、女性 50.8%）を抽出した。回収数の構成は「不明」（2.2%）を除いた数値ではあるが、人口構成と比べて、男性は 10.5 ポイント少なく、女性は 8.3 ポイント多い。

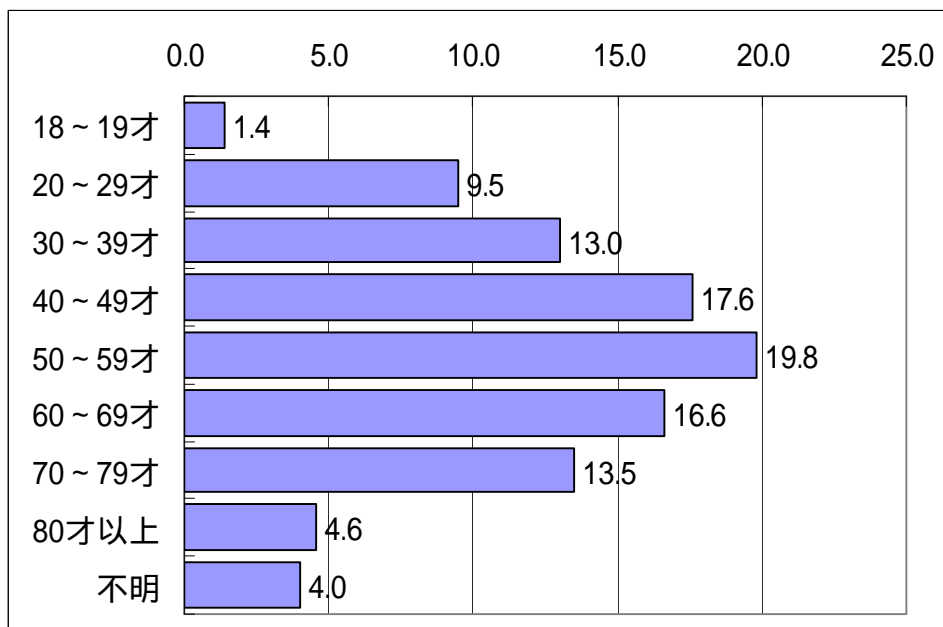
図表 F1 - 2 アンケート対象者抽出過程における性別構成 (単位: %、ポイント)

	人口構成 (A)	発送数の構成	回収数の構成	(A)との格差
男性	49.3	49.2	38.8	10.5
女性	50.7	50.8	59.0	8.3

* 人口は平成 17 年 7 月末日

F2 年齢

図表 F2 年齢 (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

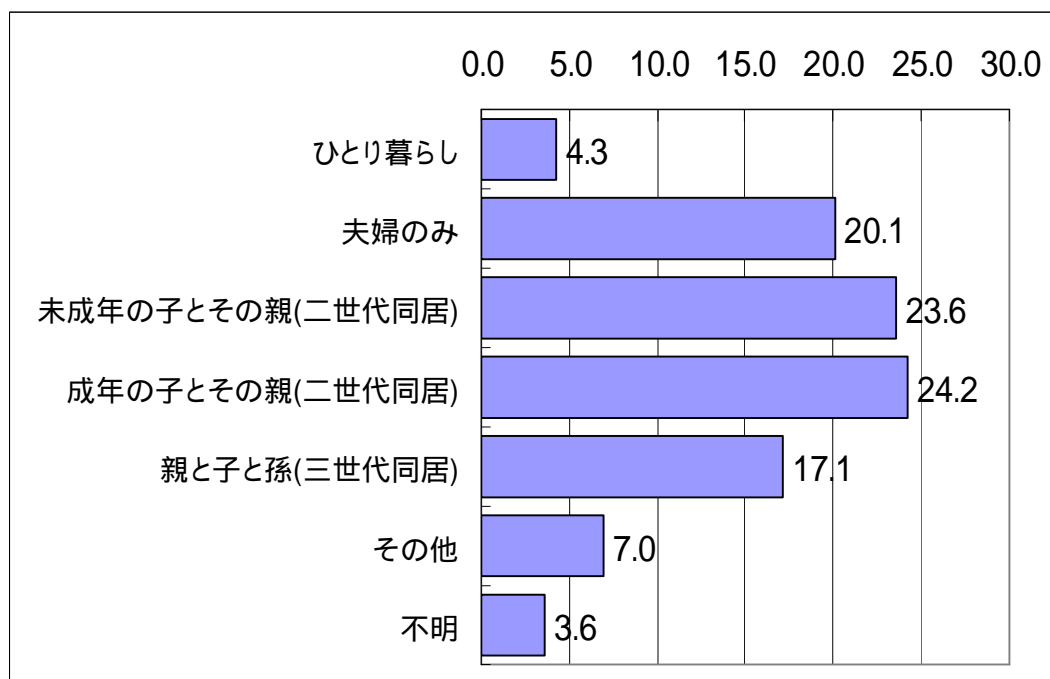
回答者に年齢を尋ねたところ、全体では「50~59才」(19.8%)が最も多かった。次いで、「40~49才」(17.6%)、「60~69才」(16.6%)、「70~79才」(13.5%)、「30~39才」(13.0%)、「20~29才」(9.5%)、「80才以上」(4.6%)、「18~19才」(1.4%)の順であった。なお、「不明」が4.0%あった。

性別で見ると、男性では「50~59才」(22.9%)が最も多かった。次いで「60~69才」(17.6%)、「70~79才」(15.1%)、「40~49才」(14.7%)、「30~39才」(11.4%)、「20~29才」(7.8%)、「80才以上」(5.3%)、「18~19才」(2.0%)の順であった。

女性では「40~49才」(20.2%)が最も多かった。これは、全体では最も多かった「50~59才」(19.8%)よりも年代がひとまわり低い。次いで「50~59才」(18.5%)、「60~69才」(16.7%)、「30~39才」(14.5%)、「70~79才」(12.6%)、「20~29才」(11.0%)、「80才以上」(4.3%)、「18~19才」(1.1%)の順であった。

F3 家族構成

図表 F3 家族構成 (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

回答者に家族構成を尋ねたところ、全体では「成年の子とその親(二世世代同居)」(24.2%)が最も多かった。次いで、「未成年の子とその親(二世世代同居)」(23.6%)、「夫婦のみ」(20.1%)、「親と子と孫(三世世代同居)」(17.1%)、「その他」(7.0%)、「ひとり暮らし」(4.3%)の順であった。なお、「不明」が3.6%あった。

性別における大きな差異はなく、男女とも全体とほぼ同じ傾向であった。

年齢別でみると、「18~19才」では、100.0%が親・家族との同居だった。

「20~29才」では、83.4%が親・家族との同居で最も多かった。また、「夫婦のみ」が6.7%、「ひとり暮らし」は1.7%であった。

「30~39才」及び「40~49才」では「未成年の子とその親(二世世代同居)」(30~39才:47.6%、40~49才:45.0%、全体:23.6%)が最も多く、「夫婦のみ」(30~39才:11.0%、40~49才:13.5%、全体:20.1%)が少ない点では同じであった。しかし、「親と子と孫(三世世代同居)」については、全体の17.1%に対して、「30~39才」が14.6%と2.5ポイント少ないのに対

して、「40～49才」は24.3%と逆に7.2ポイント多かった。これは、自らの親の年齢が主要因といえる。

「50～59才」では、「成年の子とその親(二世帯同居)」(36.0%、全体24.2%)が最も多かった。次いで、「夫婦のみ」(19.2%、全体20.1%)、「未成年の子とその親(二世帯同居)」及び「親と子と孫(三世帯同居)」(同率で各17.6%、全体23.6%及び17.1%)の順であった。

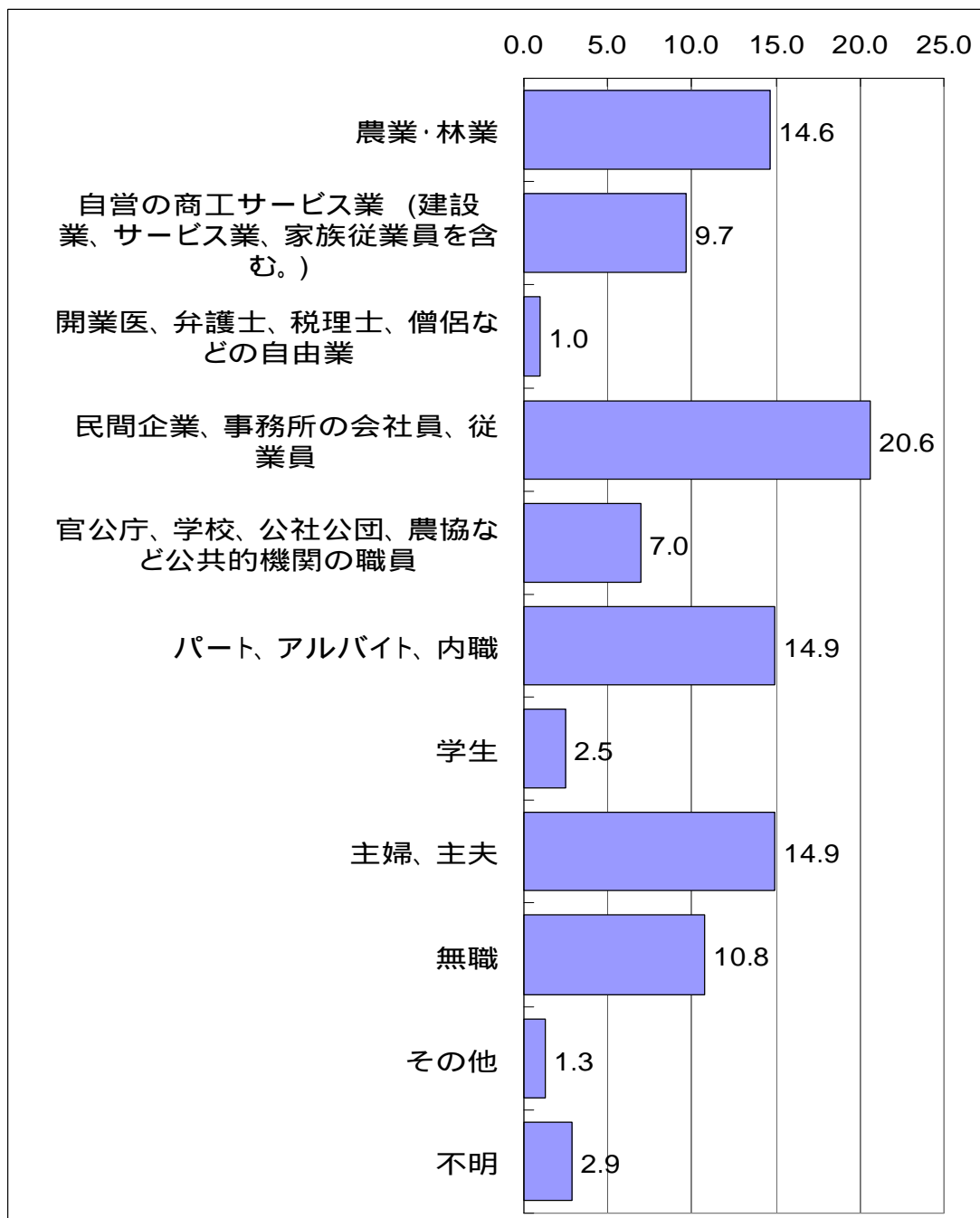
「60～69才」では、「夫婦のみ」(37.1%、全体20.1%)が最も多かった。次いで「成年の子とその親(二世帯同居)」(34.3%、全体24.2%)、「親と子と孫(三世帯同居)」(13.3%、全体17.1%)の順であった。

「70～79才」では、「夫婦のみ」(37.6%、全体20.1%)が最も多かった。次いで「成年の子とその親(二世帯同居)」(17.6%、全体24.2%)、「未成年の子とその親(二世帯同居)」(14.1%、全体23.6%)の順であった。

「80才以上」では、「成年の子とその親(二世帯同居)」(31.0%、全体24.2%)、次いで「親と子と孫(三世帯同居)」(27.6%、全体17.1%)、「ひとり暮らし」(17.2%、全体4.3%)の順であった。

F4 職業

図表 F4 職業 (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

回答者に職業を尋ねたところ、全体では「民間企業、事務所の会社員、従業員」(20.6%)が最も多かった。次いで、「パート、アルバイト、内職」及び「主婦、主夫」(同率で各 14.9%)、「農業・林業」(14.6%)、「無職」

(10.8%)、「自営の商工サービス業(建設業、サービス業、家族従業員を含む。)」(9.7%)、「官公庁、学校、公社公団、農協など公共的機関の職員」(7.0%)、「その他」(1.3%)、「開業医、弁護士、税理士、僧侶などの自由業」(1.0%)の順であった。なお、「不明」が2.9%あった。

性別で見ると、男性は「民間企業、事務所の会社員、従業員」(37.1%)が最も多かった。次いで、「農業・林業」(16.3%)、「自営の商工サービス業(建設業、サービス業、家族従業員を含む。)」(14.7%)、「無職」(11.0%)の順であった。

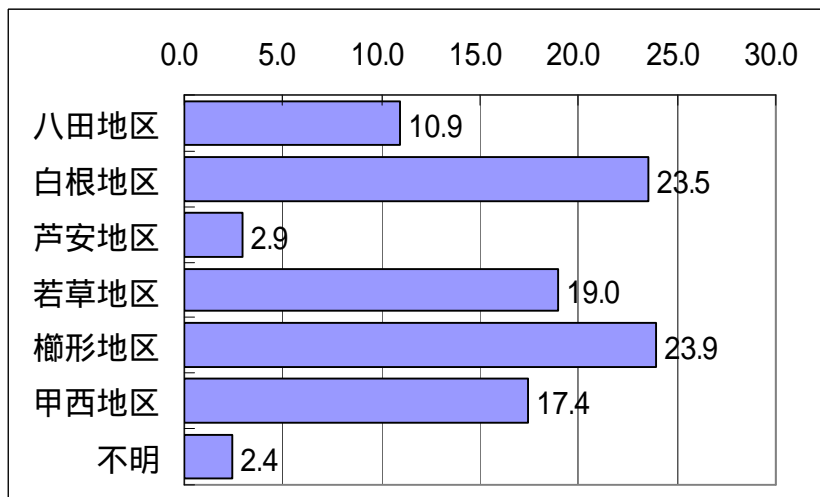
女性は「主婦、主夫」(24.7%)が最も多かった。次いで、「パート、アルバイト、内職」(21.8%)、「農業・林業」(14.0%)、「無職」(11.0%)の順であった。

年齢別で見ると、定年制が導入されている「民間企業、事務所の会社員、従業員」と「官公庁、学校、公社公団、農協など公共的機関の職員」では、「20~59才」までが従業者の9割以上を占めていた。

「パート、アルバイト、内職」は全体では14.9%であったが、「40~49才」では30.9%と16ポイント多かった。

F5 お住まい

図表 F5 - 1 お住まい (SA) n = 631 (単位 : %)



[調査結果]

回答者に居住地を尋ねたところ、全体では「櫛形地区」(23.9%)が最も多かった。次いで、「白根地区」(23.5%)、「若草地区」(19.0%)、「甲西地区」(17.4%)、「八田地区」(10.9%)、「芦安地区」(2.9%)の順であった。なお、「不明」が2.4%あった。

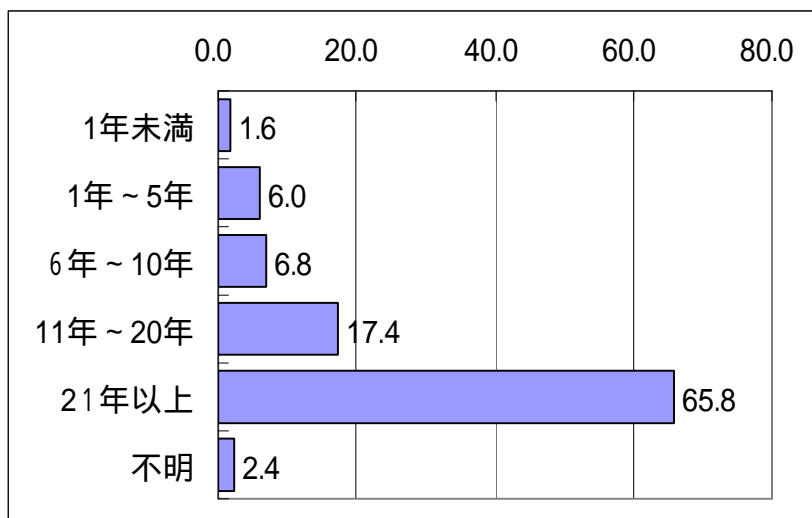
また、図表 F5 - 2 居住区別人口と比較しても、その割合は概ね近似していた。

図表 F5 - 2 居住区別人口 (平成 17 年 7 月末日現在、単位 : 人、%)

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	合計
人口	7,421	19,827	489	12,105	19,581	13,209	72,632
構成比	10.2	27.3	0.7	16.7	26.9	18.2	100.0

F 6 居住年数

図表 F 6 居住年数 (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

回答者に南アルプス市における居住年数（合併前の旧町村分を通算する。）を尋ねたところ、全体では「21年以上」（65.8%）が最も多かった。次いで、「11年～20年」（17.4%）となり、この2つを合わせた「11年以上」が83.2%を占めた。

続いて、「6年～10年」（6.8%）、「1年～5年」（6.0%）、「1年未満」（1.6%）の順であった。なお、「不明」が2.4%あった。

居住地区別で見ると、「10年以下」については全体では15.9%なのだが、「若草地区」では20.9%と5ポイント多かった。

また、「21年以上」については全体では65.8%なのだが、「芦安地区」では83.3%と17.5ポイント多かった。

調査結果 - 満足度の概況 -

1. 市民の満足度（問1～53）

各項目を「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足傾向』と「不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満傾向』として分析してみた。

満足傾向をみると、最も高いのが「広報南アルプスの内容」で56.7%、ついで「買い物の便利さ」が54.7%、「良質な水の確保や安定供給」が52.5%、「南アルプス市の住みやすさ」が51.7%の順で、この4項目が50%を超えていた。

一方、最も低かったのは、「林業の振興」の5.6%で、ついで「就職の機会」の4.4%となっており両項目だけが10%以下であった。

不満傾向をみると、最も不満としているのが「バスなどの交通機関の便利さ」(58.9%)で、この項目だけが5割を超えていた。次いで高いのは、「街路灯の設置などの防犯対策」の47.8%、ついで「就職の機会」の42.9%であり、最も高い「バスなどの交通機関の便利さ」が、両項目を10ポイント以上、上回っている。

一方、不満傾向が低いのは、「市のホームページの内容」で9.5%、ついで、「広報南アルプスの内容」の10.5%、「図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ」の10.6%の順であった。

『満足傾向』が『不満傾向』を上回ったのは53項目中35項目であった。この中で30ポイント以上上回ったのは、「広報南アルプスの内容」の46.2ポイント、ついで「良質な水の確保や安定供給」の36.0ポイント、「各種健康診断などの健康づくり」の34.7ポイント、「南アルプス市の住みやすさ」の34.5ポイント、「図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ」の34.2ポイント、「住環境の整備」の31.4ポイントの6項目であった。

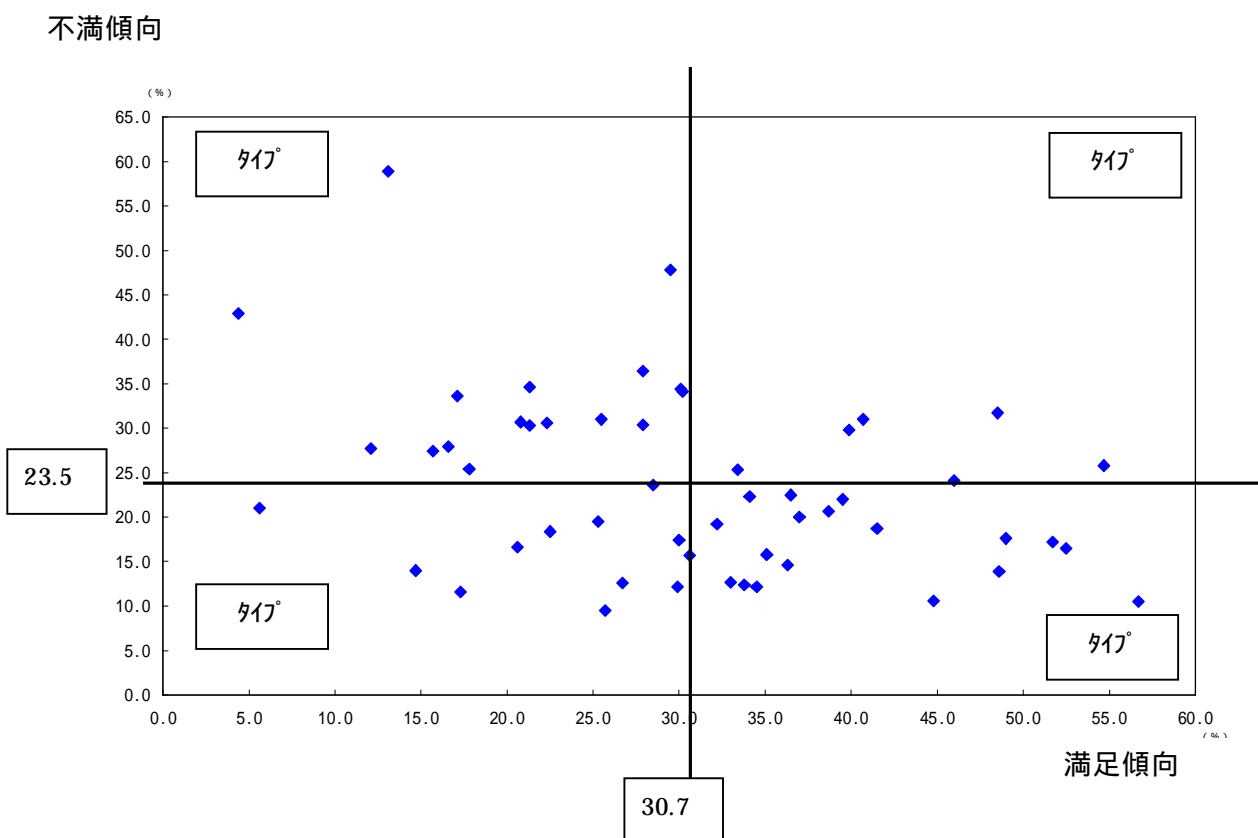
一方、『不満傾向』が『満足傾向』を上回ったのは18項目で、最も大きかったのが「バスなどの交通機関の便利さ」の45.8ポイント、ついで、「就職の機会」で38.5ポイントとなっており、次の「街路灯の設置などの防犯対策」の18.3ポイントを20ポイント以上上回っている。

満足傾向と不満傾向の平均をみると、満足傾向は 30.7%、不満傾向は 23.5%で、満足傾向が 7.3 ポイント上回っていた。

また、これらの標準偏差をみると、満足傾向が 12.4、不満傾向が 10.3 となっており、満足傾向の方が、バラツキが大きいことが伺えた。

X軸に『満足傾向』、Y軸に『不満傾向』をとり、各項目を打点(プロット)し、それぞれの平均値を基に 4 つのタイプに分類した(図 - 1 参照)。

(図 - 1)



タイプ

このタイプには「就職の機会」や「河川、水路の整備」など 18 項目(表 1-1 参照)がプロットされている。

満足傾向は平均以下で不満傾向は平均以上であるので、4 タイプ

の中では、最も好ましくないグループであると思われる。

今後、満足傾向の向上と不満傾向の低減を進める必要があるが、満足傾向と不満傾向が、片方が下がれば片方が上がるといった単純な関係でないことから、まず、どちらか一方の改善に努め、結果を得た上で他方についても改善し、タイプ に近づけていく必要がある。

(表 1-1)

(%)

項目	満足傾向	不満傾向
河川、水路の整備	30.2	34.1
公園や子どもの遊び場	30.1	34.4
街路灯の設置などの防犯対策	29.5	47.8
児童館などの園児や児童のための施設整備	28.5	23.6
下水道などの生活廃水施設の整備	27.9	36.4
災害時の防災安全対策	27.9	30.4
高齢者や心身障害者などへの支援	25.5	31.0
安心して子育てができる環境	22.3	30.6
市役所本庁の利用のしやすさ	21.3	34.6
合併後の市内他地区との一体感について	21.3	30.3
道路沿いに設置された看板、表示板	20.8	30.7
農業の振興	17.8	25.4
商業の振興	17.1	33.6
観光の振興	16.6	27.9
特産品などのブランド化への取り組み	15.7	27.4
バスなどの交通機関の便利さ	13.1	58.9
工業の振興	12.1	27.7
就職の機会	4.4	42.9

タイプ

このタイプには「林業の振興」や「男女共同参画社会実現に向けた活動の機会」など 11 項目(表 1-2 参照)がプロットされている。

満足傾向及び不満傾向ともに平均以下であるので、4 タイプの中

では中間に位置している。

今後、どのグループにも増して不満傾向を維持しながら満足傾向を高める施策を強力に推進する必要がある。

しかしながら、このグループの特徴として、「どちらでもない」という比率が高いことが見受けられることから、明確な意思表示が出来ないという傾向が伺える。したがって、このグループに入る項目は市民の認知が低い、若しくは無関心である人が多いと思われるので、満足傾向を高めることも必要であるが、事務事業の周知や積極的な情報の提供によるまちづくりへの参加意識の改善が必要だと思われる。

(表 1-2)

(%)

項目	満足傾向	不満傾向
文化財や伝統芸能（お祭りなど）の保護	30.6	15.7
体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさ	30.0	17.4
保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育、教育内容	29.9	12.2
ボランティア、自主活動グループなどの地域活動	26.7	12.6
市のホームページの内容	25.7	9.5
自治会やサークル活動などの地域活動	25.3	19.5
法律相談、消費生活相談などの生活全般に関わる相談体制	22.5	18.4
地域ぐるみの青少年教育、健全育成	20.6	16.6
海外姉妹都市などとの国際交流活動	17.3	11.6
男女共同参画社会実現に向けた活動の機会	14.7	14.0
林業の振興	5.6	21.0

タイプ

このタイプには「買い物の便利さ」や「ごみの収集方法や収集回数」など6項目(表 1-3 参照)がプロットされている。

満足傾向及び不満傾向ともに平均以上であるので、4タイプの中では中間に位置している。

今後、PDCAサイクルの実践による満足傾向の維持増高と合わせ不満傾向を下げる施策を推進する必要がある。

(表 1-3)

(%)

項目	満足傾向	不満傾向
買い物の便利さ	54.7	25.8
ごみの収集方法や収集回数	48.5	31.7
公共温泉施設の利用のしやすさ	46.0	24.1
道路の整備	40.7	31.0
現在の生活や暮らし	39.9	29.8
街並み景観の美しさ	33.4	25.3

タイプ

このタイプには「広報南アルプスの内容」や「良質な水の確保や安定供給」など 18 項目(表 1-4 参照)がプロットされている。

満足傾向は平均以上で不満傾向は平均以下であるので、4 タイプの中では、最も好ましいグループである。

今後も満足傾向を維持するように点検評価及び改善のマネジメントサイクルを実施していく必要がある。

(表 1-4)

(%)

項目	満足傾向	不満傾向
広報南アルプスの内容	56.7	10.5
良質な水の確保や安定供給	52.5	16.5
南アルプス市の住みやすさ	51.7	17.2
住まいの快適さについて	49.0	17.6
各種健康診断などの健康づくり	48.6	13.9
図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ	44.8	10.6
地区公会堂や集会場の利用のしやすさ	41.5	18.7
美しい自然環境の保全について	39.5	22.0
市役所支所の利用のしやすさ	38.7	20.7
安全指導、啓発活動などの交通安全対策	37.0	20.0
地域のお祭り、イベント	36.5	22.5
市役所、消防本部、企業局等の電話対応	36.3	14.6
有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容	35.1	15.8

生涯学習の教室、講座の開催	34.5	12.2
救急医療体制	34.1	22.3
学校施設の整備	33.8	12.4
スポーツ教室、講座の開催	33.0	12.7
市役所、消防本部、企業局等の窓口対応	32.2	19.2

2. 市民の役割（問 54～62）

各項目を「とても良くやっている」と「良くやっている」を合わせた『実行傾向』と「努力を要する」と「とても努力を要する」を合わせた『要努力傾向』として分析してみた。

実行傾向をみると、「市役所のまちづくりへの総合的な取り組み具合の評価」が 22.7%で高く、ついで「住民参加を促すため、個人情報に留意したうえで積極的な情報提供を図るという市の取り組み具合の評価」が 21.7%の順となり、この 2 項目が 2 割を超えていた。

一方、低かったのは、「地域コミュニティを形成し話し合いの中から地域のあり方を考えるという自己の取り組み具合の評価」が 10.7%で、「市役所のまちづくりへの総合的な取り組み具合の評価」より 12 ポイント下回った。

不満傾向をみると、最も不満としているのが「地域コミュニティを形成し話し合いの中から地域のあり方を考えるという自己の取り組み具合の評価」で 37.3%、ついで「まちづくりに対する市民の役割について市民はどれくらい頑張っていると思うか」が 31.7%、「効率的な行政運営を行いつつ、質の高い行政サービスを提供することへの市の評価」が 30.1%、「本市の問題点や課題を市民に提起することにより、市民のまちづくりへの関心を高めるとする市の取り組み具合」が 30.1%の順であった。

「実行傾向」から「要努力傾向」を減じてみると、すべての項目においてマイナスとなっている。この中で最も差が大きいのは、「地域コミュニティを形成し話し合いの中から地域のあり方を考えるという自己の取り組み具合の評価」の 26.6 ポイント、ついで「地域での課題を地域自らで解決することを試みるなど、まちづくりのあらゆる

取組みに責任を持って主体的に参加し行動するという自己の取組み具合」の 17.3 ポイントで、両項目の差は 9.3 ポイントある。

「市の取組み具合の評価」と「市民の自己評価」で比べてみると、「市民の自己評価」の方が総じて要努力傾向が高く、市民自らの取組みに対して、市の取組み以上に頑張っていないという厳しい評価を下しているようである。

また、この調査項目については、施策を講じたから即座に効果があがるといった項目ではないことから、長期的な目標による施策等の実施が望まれる。

(表 2-1)

(%)

項目	実行傾向	要努力傾向	差引き (実行 - 要努力)
「まちづくりに熱意と使命感を持つ」という役割について、どのくらい意識し、行動していますか。	13.5	26.8	13.3
「地域での課題を地域自らで解決することを試みるなど、まちづくりのあらゆる取組みに責任を持って主体的に参加し行動する」という役割について、自己の取組み具合をどう評価しますか。	12.7	30.0	17.3
「地域コミュニティを形成し話し合いの中から地域のあり方を考える」という役割について、自己の取組み具合をどう評価しますか。	10.7	37.3	26.6
まちづくりに対する市民の役割を総合的に判断すると、市民はどれくらい頑張っていると思いますか。	19.8	31.7	11.9
「住民参加を促すため、個人情報に留意したうえで積極的な情報提供を図る」という役割について、市の取組み具合をどのように評価しますか。	21.7	23.0	1.3
「本市の問題点や課題を市民に提起することにより、市民のまちづくりへの関心を高める」という役割について、市の取組み具合をどのように評価しますか。	18.2	30.1	11.9
「効率的な行政運営を行いつつ、質の高い行政サービスを提供する」という役割について、市の取組み具合をどのように評価しますか。	19.2	30.1	10.9

「新しい時代認識を共有しながらまちづくり活動への参画のしくみづくりや地域の自発的・主体的な取り組みを支援する」という役割について、市の取り組み具合をどのように評価しますか。	17.9	26.3	8.4
市役所のまちづくりへの総合的な取り組み具合を判断すると、どのような評価をしますか。	22.7	28.8	6.1

3. 前回調査（平成15年9月実施）との比較

（今回調査項目中の30項目が対象）

各項目を「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足傾向』と「不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満傾向』として前回の調査項目と比較してみた。

満足傾向についてみると、前回と今回の調査とも最も高いのが「広報南アルプスの内容」で、反面、最も低いのが「バスなどの交通機関の便利さ」で同様の項目であった。

今回調査から前回調査を減じると、26項目で満足傾向の向上が見られている。（表3-1参照）

- ・ 最も増加したのが「買い物の便利さ」の17.8ポイント、ついで、「災害時の防災安全対策」の17.4ポイント、「安全指導、啓発活動などの交通安全対策」の15.8ポイント、「街路灯の設置などの防犯対策」の11.4ポイント、「救急医療体制」の10.9ポイントの順で、この5項目が10ポイント以上増加した。
- ・ 一方、最も低下したのは「現在の生活や暮らし」の5.7%、ついで「南アルプス市の住みやすさ」の0.9%、「有線放送テレビ（CATV）の行政番組の内容」の0.4%、「公園や子どもの遊び場」の0.3%の4項目であった。
- ・ 最大値をみると、前回は54.4%であったが、今回は56.7%と2.3ポイント上がった。
- ・ 最小値をみると、前回は10.1%であったが、今回は13.1%と3

ポイント上がった。

- ・ 平均をみると前回調査は 28.6%、今回調査は 33.9%で 5.3 ポイント増加している。
- ・ これらのことから総じて、満足傾向が高まっていることが伺える。

不満傾向についてみると、前回と今回の調査とも最も高いのが「バスなどの交通機関の便利さ」で、反面、最も低いのが「市のホームページの内容」で同様の項目であった。

今回調査から前回調査を減じると、17 項目で不満傾向の増加（悪い方向）が見られている。（表 3-1 参照）

- ・ 最も増加したのが「現在の生活や暮らし」の 12.2 ポイントで、この項目だけが 10 ポイント以上増加した。
- ・ 一方、減少したのは 12 項目で、このうち最も減少した（良い方向）のは「買い物の便利さ」の 11.9%、ついで「体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさ」の 7.0%、「道路の整備」の 6.8% の順であった。
- ・ 最大値をみると、前回は 61.5%であったが、今回は 58.9%と 2.6 ポイント下がった。
- ・ 最小値をみると、前回は 9.0%であったが、今回は 9.5%と 0.5 ポイント上がった。
- ・ 平均をみると前回調査は 22.9%、今回調査は 23.3%で 0.4 ポイント増加している。
- ・ これらのことから総じて、不満傾向も高まっていることが伺える。

(表 3-1)

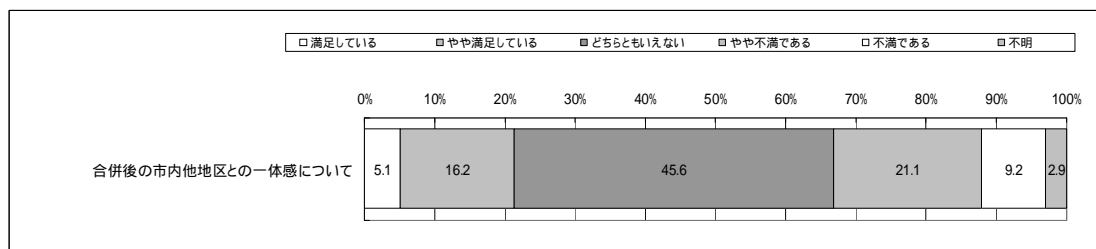
(%)

項目	満足傾向	不満傾向
買い物の便利さ	17.8	11.9
災害時の防災安全対策	17.4	0.8
安全指導、啓発活動などの交通安全対策	15.8	1.5
街路灯の設置などの防犯対策	11.4	1.1
救急医療体制	10.9	3.6
市役所、消防本部、企業局等の電話対応	7.2	2.3
図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ	7.4	4.0
市のホームページの内容	7.6	0.5
高齢者や心身障害者などへの支援	7.2	6.5
ごみの収集方法や収集回数	6.2	2.5
下水道などの生活廃水施設の整備	5.6	4.9
道路の整備	5.1	6.8
体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさ	5.5	7.0
児童館などの園児や児童のための施設整備	5.7	0.2
市役所、消防本部、企業局等の窓口対応	5.9	0
各種健康診断などの健康づくり	4.5	2.0
自治会やサークル活動などの地域活動	4.7	6.1
バスなどの交通機関の便利さ	3.0	2.6
保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育、教育内容	3.0	3.6
市役所支所の利用のしやすさ	3.6	2.0
市役所本庁の利用のしやすさ	3.6	7.4
広報南アルプスの内容	2.3	0.6
男女共同参画社会実現に向けた活動の機会	2.9	1.6
海外姉妹都市などとの国際交流活動	2.0	2.4
文化財や伝統芸能（お祭りなど）の保護	1.8	4.5
地区公会堂や集会場の利用のしやすさ	0.2	4.0
公園や子どもの遊び場	0.3	1.8
有線放送テレビ（CATV）の行政番組の内容	0.4	2.2
南アルプス市の住みやすさ	0.9	5.5
現在の生活や暮らし	5.7	12.2

調査結果 - 区分ごと -

区分1 合併後の市内他地区との一体感について

図表1 合併後の市内他地区との一体感について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

合併後の市内他地区との一体感について尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」は21.3%であった。また、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」は30.3%であった。「不満傾向」が「満足傾向」を9.0ポイント上回っている。

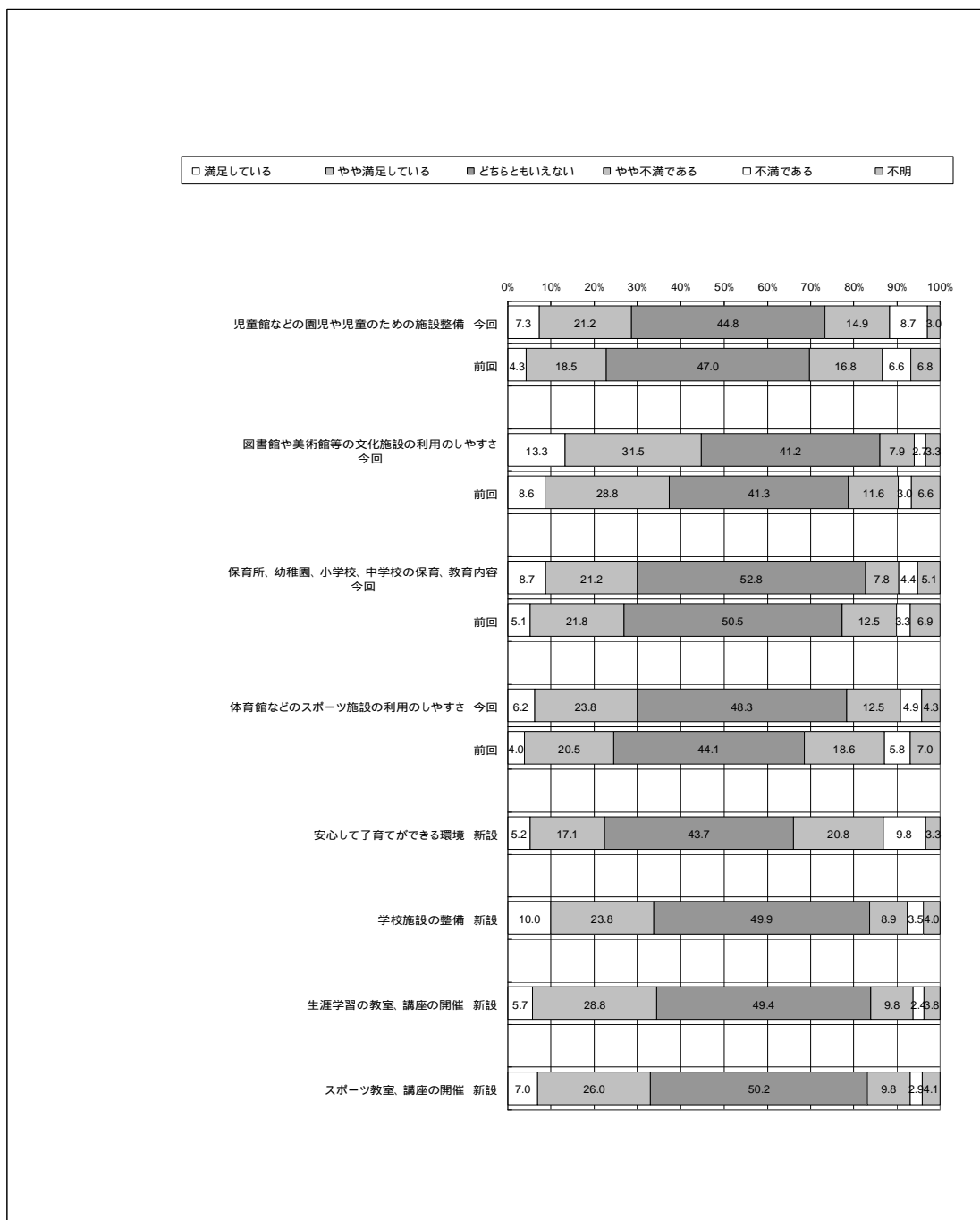
なお、「どちらともいえない」は45.6%、「不明」は2.9%であった。

居住地別でみると、「満足傾向」が最も多かったのは「芦安地区」(27.8%)であった。次いで、「櫛形地区」(25.8%)、「甲西地区」(21.9%)の順であった。

一方、「不満傾向」が最も多かったのは、「八田地区」(43.5%)であった。次いで、「芦安地区」(33.3%)、「若草地区」(32.5%)の順であった。なお、「満足傾向」が「不満傾向」を上回っていたのは「櫛形地区」(1.9ポイント)だけであった。

区分2 教育に関する満足度について

図表2 教育に関する満足度について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

教育に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ」(44.8%)であった。次いで、「生涯学習の教室、

講座の開催」(34.5%)、「学校施設の整備」(33.8%)、「スポーツ教室、講座の開催」(33.0%)、「体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさ」(30.0%)の順であった。これら5項目は、「満足傾向」が「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」を上回っている。

家族構成別でみると、「満足傾向」が最も多かった「図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ」(44.8%)では、「未成年の子とその親(二世帯同居)」の「満足傾向」は49.7%で、全体を4.9ポイント上回った。「生涯学習の教室、講座の開催」(34.5%)では、「夫婦のみ」(40.9%)の「満足傾向」は、全体を6.4ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「安心して子育てができる環境」(30.6%)であった。次いで、「児童館などの園児や児童のための施設整備」(23.6%)、「体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさ」(17.4%)、「スポーツ教室、講座の開催」(12.7%)、「学校施設の整備」(12.4%)の順であった。これら5項目のうち、「不満傾向」が「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」を上回っていたのは「安心して子育てができる環境」(30.6%)だけである。

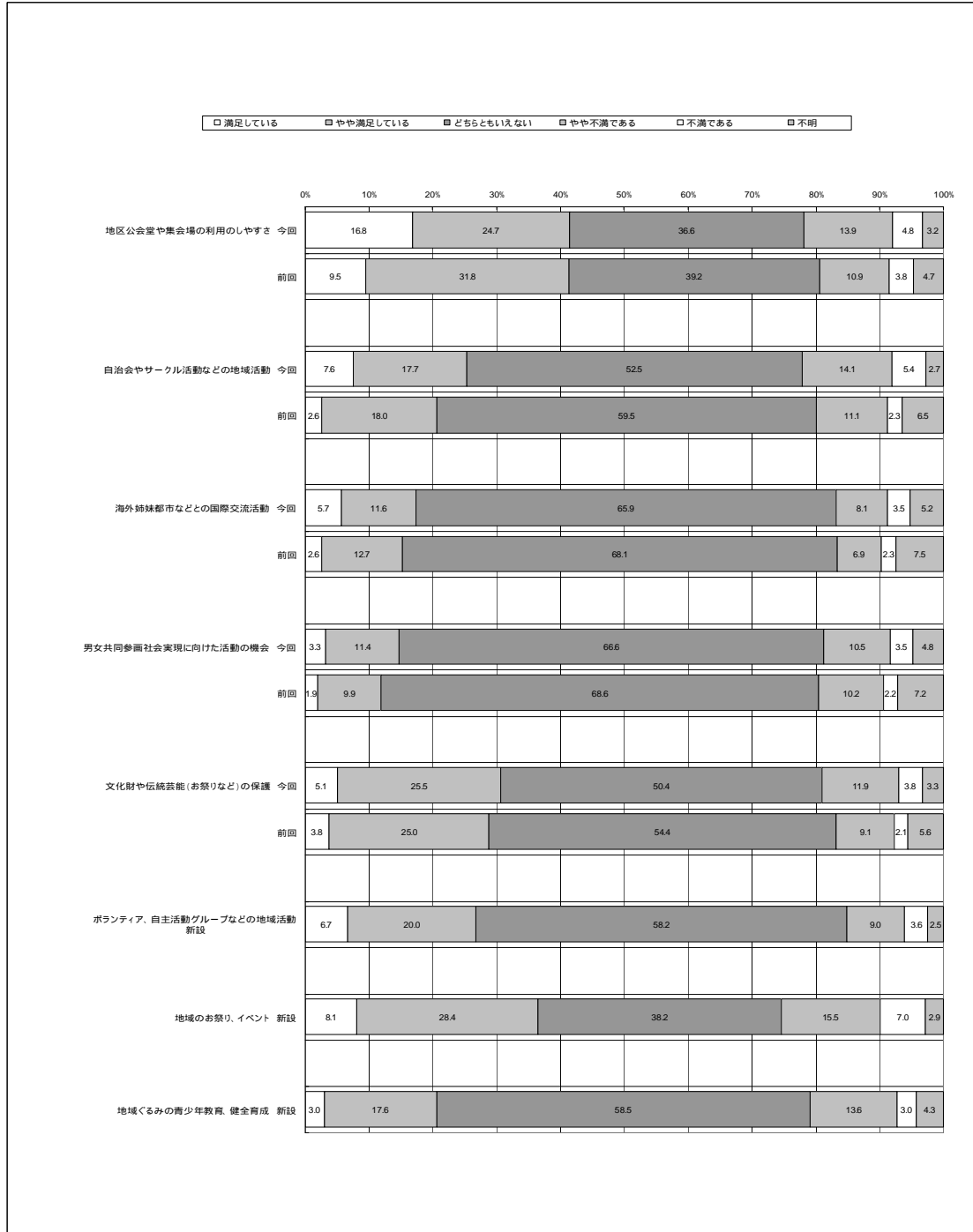
家族構成別でみると、「不満傾向」が最も多かった「安心して子育てができる環境」(30.6%)では、「未成年の子とその親(二世帯同居)」の「不満傾向」は40.3%で、全体を9.7ポイント上回った。「児童館などの園児や児童のための施設整備」(23.6%)では、「未成年の子とその親(二世帯同居)」(33.6%)の「不満傾向」は、全体を10.0ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさ」(7.4ポイント)次いで、「児童館などの園児や児童のための施設整備」(5.7ポイント)、「体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさ」(5.5ポイント)、「保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育、教育内容」(3.0ポイント)の順であった。これら4項目全てが前回の「満足傾向」を上回っていた。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が増加したのは、「児童館などの園児や児童のための施設整備」(0.2ポイント)のみで、他の3項目は前回の「不満傾向」を下回っていた。

区分3 地域活動に関する満足度について

図表3 地域活動に関する満足度について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

地域活動に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「地区公会堂や集会場

の利用のしやすさ」(41.5%)、次いで、「地域のお祭りや、イベント」(36.5%)、「文化財や伝統芸能(お祭りなどの保護)」(30.6%)、「自治会やサークル活動などの地域活動」(19.5%)、「地域ぐるみの青少年教育、健全育成」(16.6%)、「ボランティア、自主活動グループなどの地域活動」(26.7%)の順であった。

居住地別でみると、「満足傾向」が最も多かった「地区公会堂や集会場の利用のしやすさ」(41.5%)では、「白根地区」の「満足傾向」は48.0%で、全体を6.5ポイント上回った。「地域のお祭りや、イベント」(37.3%)では、「若草地区」(44.4%)の「満足傾向」は、全体を7.1ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「地域のお祭りや、イベント」(22.5%)であった。次いで、「自治会やサークル活動などの地活動」(19.5%)、「地区公会堂や集会場の利用のしやすさ」(18.7%)、「地域ぐるみの青少年教育、健全育成」(16.6%)の順であった。

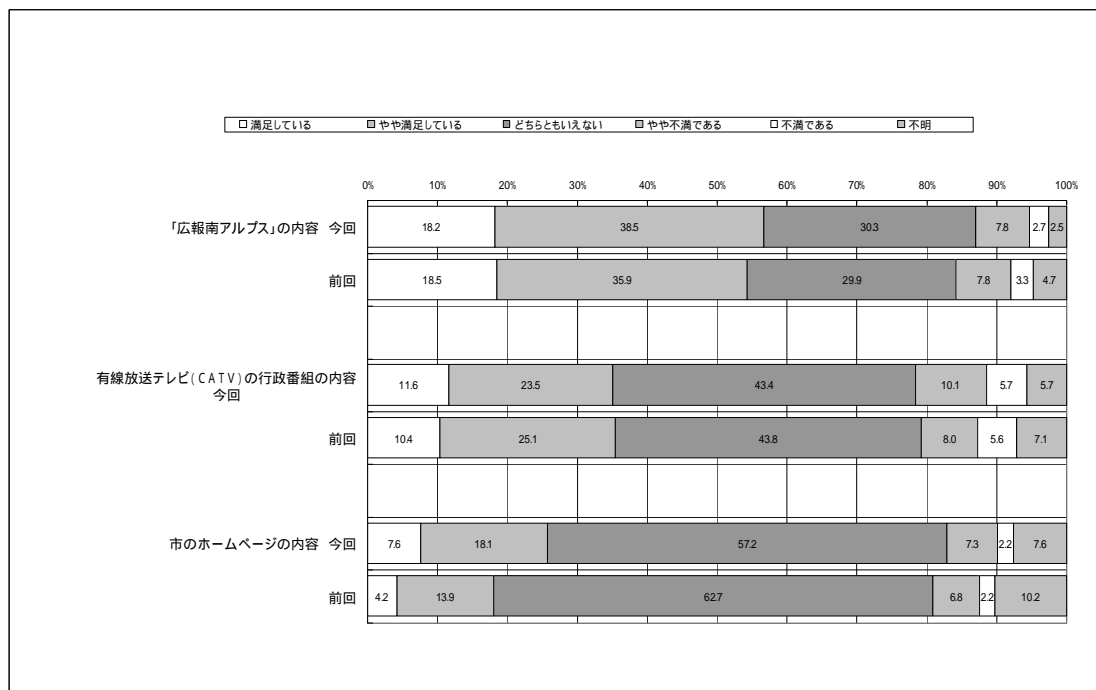
居住地別でみると、「不満傾向」が最も多かった「地域のお祭りや、イベント」(22.5%)では、「八田地区」の「不満傾向」は36.2%で、全体を13.7ポイント上回った。「自治会やサークル活動などの地活動」(19.5%)では、「芦安地区」(22.5%)の「不満傾向」は、全体を3.0ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「自治会やサークル活動などの地域活動」(4.7ポイント)、次いで、「男女共同参画社会実現に向けた活動の機会」(2.9ポイント)、「海外姉妹都市などとの国際交流活動」(2.0ポイント)、「文化財や伝統芸能(お祭りなどの保護)」(1.8ポイント)、「地区公会堂や集会場の利用のしやすさ」(0.2ポイント)の順であった。これら5項目全てが前回の「満足傾向」を上回っていた。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が最も増加したのは、「自治会やサークル活動などの地域活動」(6.1ポイント)、次いで、「文化財や伝統芸能(お祭りなどの保護)」(4.5ポイント)、「地区公会堂や集会場の利用のしやすさ」(4.0ポイント)、「海外姉妹都市などとの国際交流活動」(2.4ポイント)、「男女共同参画社会実現に向けた活動の機会」(1.6ポイント)の順であった。

区分4 行政情報に関する満足度について

図表4 行政情報に関する満足度について（SA） n = 631 （単位：％）



[調査結果]

行政情報に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「「広報南アルプス」の内容」（56.7％）、次いで、「有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容」（35.1％）、「市のホームページの内容」（25.7％）の順であった。

年齢別で見ると、「満足傾向」が最も多かった「「広報南アルプス」の内容」（56.7％）では、「60才以上」の「満足傾向」は67.1％で、全体を10.4ポイント上回った。「60才未満」の「満足傾向」は50.6％で、全体を6.1ポイント下回った。「有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容」（35.1％）では、「60才以上」の「満足傾向」（42.9％）は、全体を7.8ポイント上回った。「60才未満」の「満足傾向」は31.0％で、全体を4.1ポイント下回った。「市のホームページの内容」（25.7％）では、「60才以上」の「満足傾向」（36.1％）は、全体を10.4ポイント上回った。「60才未満」の「満足傾向」は19.1％で、全体を6.6ポイント下回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多

かったのは、「有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容」(15.8%)であった。次いで、「「広報南アルプス」の内容」(10.5%)、「市のホームページの内容」(9.5%)の順であった。

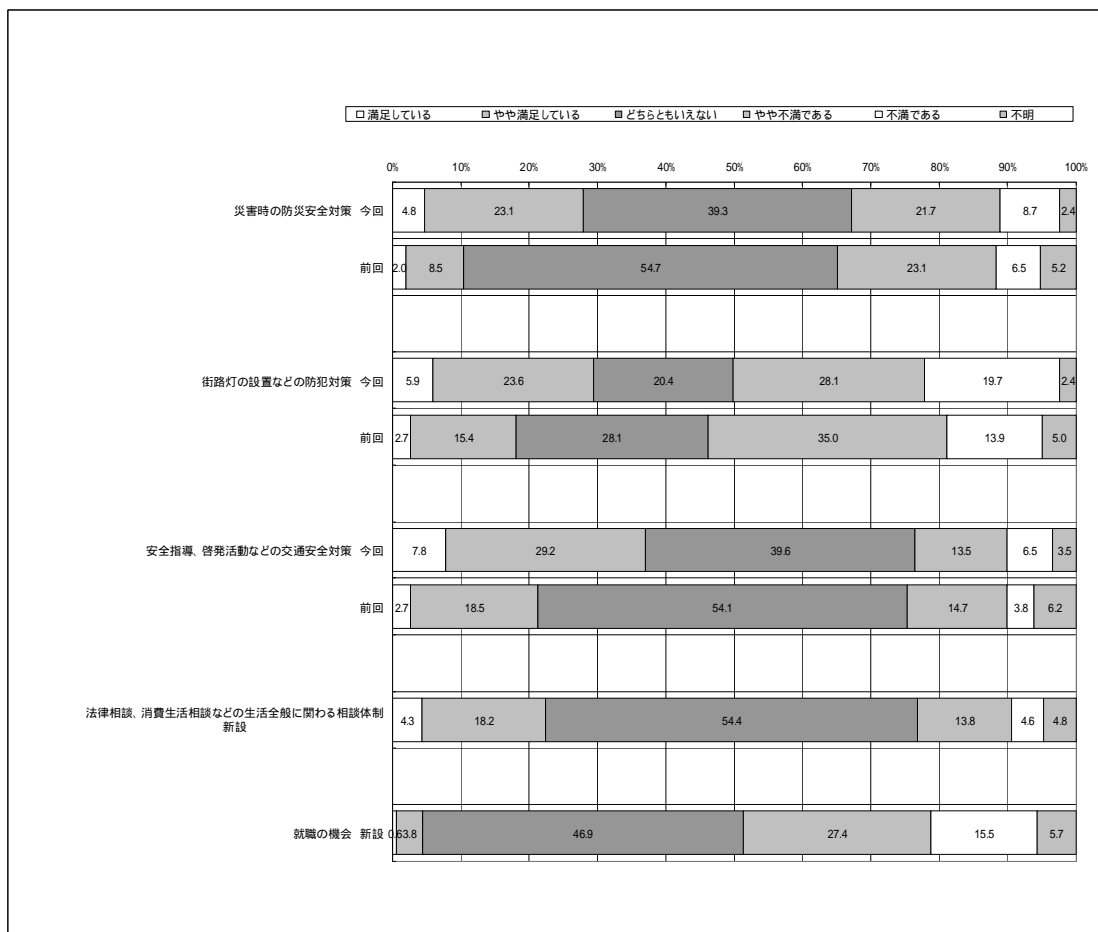
年齢別でみると、「不満傾向」が最も多かった「有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容」(15.8%)では、「60才以上」の「不満傾向」は10.5%で、全体を5.3ポイント下回った。「60才未満」の「不満傾向」は19.1%で、全体を3.3ポイント上回った。「「広報南アルプス」の内容」(10.5%)では、「60才以上」の「不満傾向」(8.7%)は、全体を1.8ポイント下回った。「60才未満」の「不満傾向」は11.9%で、全体を1.4ポイント上回った。「市のホームページの内容」(9.5%)では、「60才以上」の「不満傾向」(8.7%)は、全体を0.8ポイント下回った。「60才未満」の「不満傾向」は10.3%で、全体を0.8ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「市のホームページの内容」(7.6ポイント)次いで、「「広報南アルプス」の内容」(2.3ポイント)の順であった。「有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容」は、前回から0.4ポイント減少した。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が最も増加したのは、「有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容」(2.2ポイント)次いで、「市のホームページの内容」(0.5ポイント)の順であった。「「広報南アルプス」の内容」(2.3ポイント)は、前回から「不満傾向」が0.6ポイント減少した。

区分5 市民生活に関する満足度について

図表5 市民生活に関する満足度について（SA） n = 631 （単位：％）



[調査結果]

市民生活に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「安全指導、啓発活動などの交通安全対策」（37.0％）、次いで、「街路灯の設置などの防犯対策」（29.5％）、「災害時の防災安全対策」（27.9％）の順であった。

職業別でみると、「満足傾向」が最も多かった「安全指導、啓発活動などの交通安全対策」（37.0％）では、「農業・林業」の「満足傾向」は52.2％で、全体を15.2ポイント上回った。「街路灯の設置などの防犯対策」（29.5％）では、「農業・林業」（52.2％）の「満足傾向」は、全体を22.7ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多

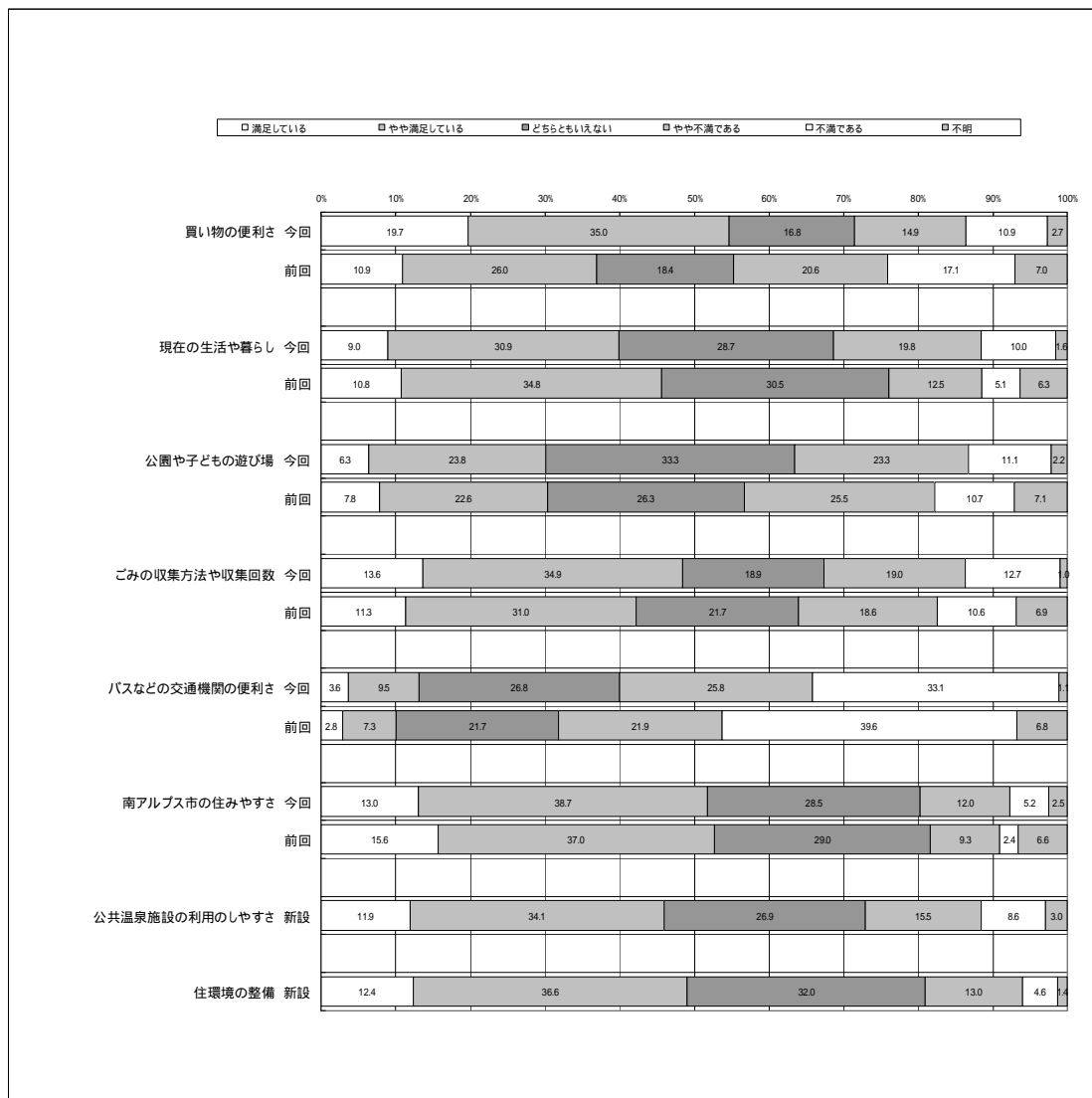
かったのは、「街路灯の設置などの防犯対策」(47.8%)であった。次いで、「就職の機会」(42.9%)、「災害時の防災安全対策」(30.4%)の順であった。職業別でみると、「不満傾向」が最も多かった「街路灯の設置などの防犯対策」(47.8%)では、「パート、アルバイト、内職」の「不満傾向」は62.7%で、全体を14.9ポイント上回った。「就職の機会」(42.9%)では、「開業医、弁護士、税理士、僧侶などの自由業」(83.3%)の「不満傾向」は、全体を40.4ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「災害時の防災安全対策」(17.4ポイント)次いで、「安全指導、啓発活動などの交通安全対策」(15.8ポイント)「街路灯の設置などの防犯対策」(11.4ポイント)の順であった。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が最も増加したのは、「安全指導、啓発活動などの交通安全対策」(1.5ポイント)次いで、「災害時の防災安全対策」(0.8ポイント)の順であった。「街路灯の設置などの防犯対策」は、前回から「不満傾向」が1.1ポイント減少した。

区分6 居住環境に関する満足度について

図表6 居住環境に関する満足度について（SA） n = 631 （単位：％）



[調査結果]

居住環境に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「買い物の便利さ」（54.7％）、次いで、「南アルプス市の住みやすさ」（51.7％）、「住環境の整備」（49.0％）、「ゴミの収集方法や収集回数」（48.5％）の順であった。

居住地別でみると、「満足傾向」が最も多かった「買い物の便利さ」（54.7％）では、「櫛形地区」の「満足傾向」は66.2％で、全体を11.5ポイント上回った。「南アルプス市の住みやすさ」（51.7％）では、「櫛形地区」

(61.0%)の「満足傾向」は、全体を9.3ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「バスなどの交通機関の便利さ」(58.9%)であった。次いで、「公園や子どもの遊び場」(34.4%)、「ゴミの収集方法や収集回数」(31.7%)、「現在の生活や暮らし」(29.8%)の順であった。

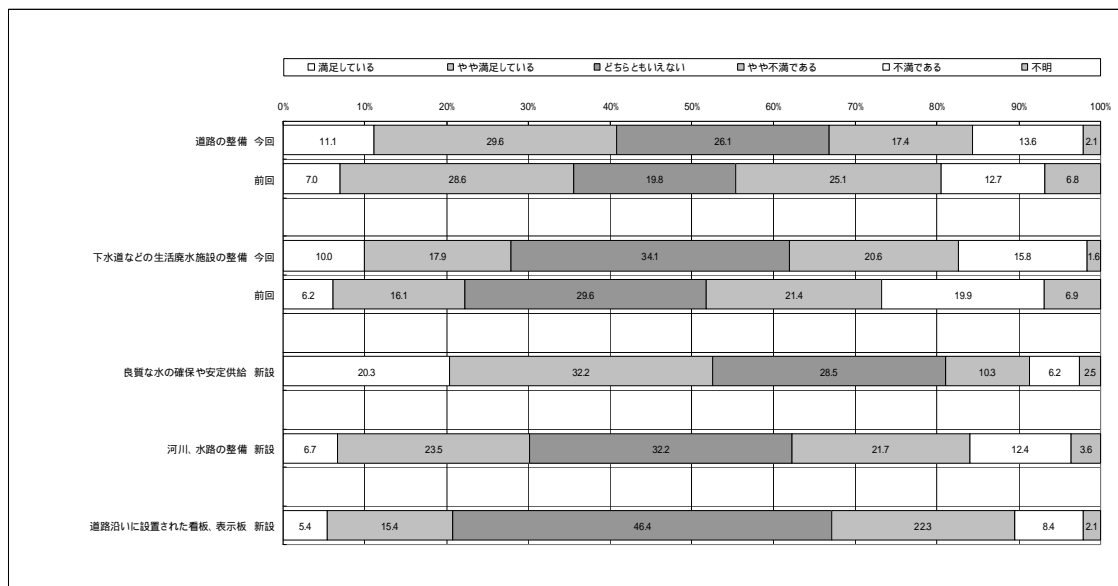
居住地別でみると、「不満傾向」が最も多かった「バスなどの交通機関の便利さ」(58.9%)では、「若草地区」の「不満傾向」は68.4%で、全体を9.5ポイント上回った。「公園や子どもの遊び場」(34.4%)では、「芦安地区」(55.5%)の「不満傾向」は、全体を21.1ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「買い物の便利さ」(17.8ポイント)、次いで、「ゴミの収集方法や収集回数」(6.2ポイント)、「バスなどの交通機関の便利さ」(3.0ポイント)の順であった。「公園や子どもの遊び場」は、前回から0.3ポイント、「南アルプス市の住みやすさ」は、0.9ポイント、「現在の生活や暮らし」は5.7ポイントそれぞれ減少した。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が最も増加したのは、「現在の生活や暮らし」(12.2ポイント)、次いで、「南アルプス市の住みやすさ」(5.5ポイント)、「ゴミの収集方法や収集回数」(2.5ポイント)の順であった。他の3項目の「不満傾向」は、前回より減少している。

区分7 産業基盤整備に関する満足度について

図表7 産業基盤整備に関する満足度について（SA） n = 631 （単位：％）



[調査結果]

産業基盤整備に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「良質な水の確保や安定供給」（52.5％）、次いで、「道路の整備」（40.7％）、「河川、水路の整備」（30.2％）の順であった。

居住地別でみると、「満足傾向」が最も多かった「良質な水の確保や安定供給」（52.5％）では、「白根地区」の「満足傾向」は62.1％で、全体を9.6ポイント上回った。「道路の整備」（40.7％）では、「楡形地区」（55.6％）の「満足傾向」は、全体を14.9ポイント上回った。

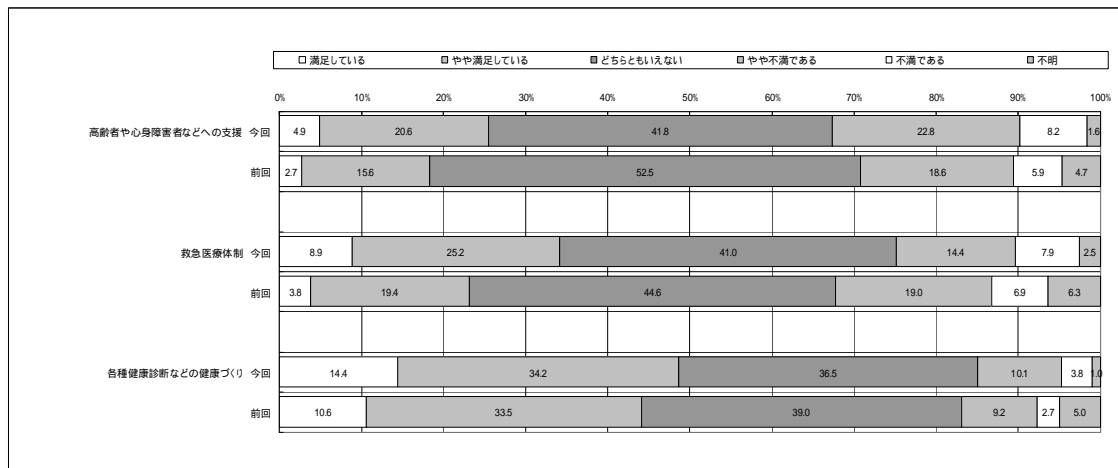
一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「下水道などの生活廃水施設の整備」（36.4％）であった。次いで、「河川、水路の整備」（34.1％）、「道路の整備」（31.0％）の順であった。

居住地別でみると、「不満傾向」が最も多かった「下水道などの生活廃水施設の整備」（36.4％）では、「若草地区」の「不満傾向」は43.3％で、全体を6.9ポイント上回った。「河川、水路の整備」（34.1％）では、「芦安地区」（50.0％）の「不満傾向」は、全体を15.9ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「下水道などの生活廃水施設の整備」（5.6 ポイント）、次いで、「道路の整備」（5.1 ポイント）の順であった。また、「不満傾向」は2項目とも前回より減少している。

区分8 医療・福祉に関する満足度について

図表8 医療・福祉に関する満足度について（SA） n = 631 （単位：％）



[調査結果]

医療・福祉に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「各種健康診断などの健康づくり」（48.6％）、次いで、「救急医療体制」（34.1％）、「高齢者や心身障害者などへの支援」（25.5％）の順であった。

年齢別で見ると、「満足傾向」が最も多かった「各種健康診断などの健康づくり」（48.6％）では、「60才以上」の「満足傾向」は64.4％で、全体を15.8ポイント上回った。「救急医療体制」（34.1％）では、「60才以上」（51.6％）の「満足傾向」は、全体を17.5ポイント上回った。「高齢者や心身障害者などへの支援」（25.5％）では、「60才以上」（37.0％）の「満足傾向」は、全体を11.5ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「高齢者や心身障害者などへの支援」（31.0％）であった。次いで、「救急医療体制」（22.3％）、「各種健康診断などの健康づくり」（13.9％）の順であった。

年齢別で見ると、「不満傾向」が最も多かった「高齢者や心身障害者などへの支援」（31.0％）では、「60才未満」の「不満傾向」は31.8％で、全体を0.8ポイント上回った。「救急医療体制」（22.3％）では、「60才未満」（27.6％）の「不満傾向」は、全体を5.3ポイント上回った。「各種健康診断

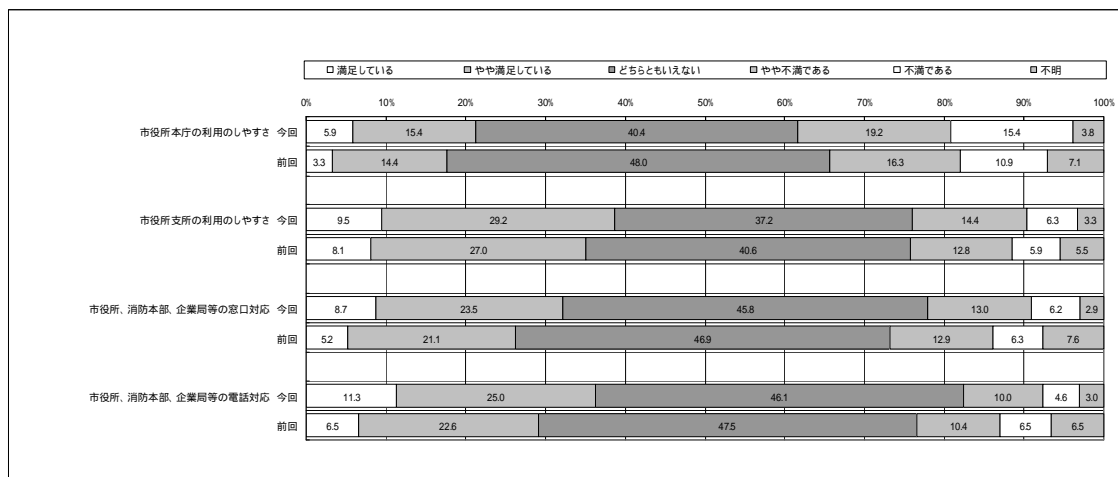
などの健康づくり」(13.9%)では、「60才未満」(16.0%)の「不満傾向」は、全体を2.1ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「救急医療体制」(10.9ポイント)、次いで、「高齢者や心身障害者などへの支援」(7.2ポイント)、「各種健康診断などの健康づくり」(4.5ポイント)の順であった。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が最も増加したのは、「高齢者や心身障害者などへの支援」(6.5ポイント)、次いで、「各種健康診断などの健康づくり」(2.0ポイント)の順であった。「救急医療体制」の「不満傾向」は、前回より3.6ポイント減少している。

区分9 行政サービスに関する満足度について

図表9 行政サービスに関する満足度について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

行政サービスに関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「市役所支所の利用のしやすさ」(38.7%)、次いで、「市役所、消防本部、企業局等の電話対応」(36.3%)、「市役所、消防本部、企業局等の窓口対応」(32.2%)の順であった。

居住地別で見ると、「満足傾向」が最も多かった「市役所支所の利用のしやすさ」(38.7%)では、「白根地区」の「満足傾向」は42.6%で、全体を3.9ポイント上回った。「市役所、消防本部、企業局等の電話対応」(36.3%)では、「櫛形地区」(45.0%)の「満足傾向」は、全体を8.7ポイント上回った。「市役所、消防本部、企業局等の窓口対応」(32.2%)では、「櫛形地区」(43.0%)の「満足傾向」は、全体を10.8ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「市役所本庁の利用のしやすさ」(34.6%)であった。次いで、「市役所支所の利用のしやすさ」(20.7%)、「市役所、消防本部、企業局等の窓口対応」(19.2%)の順であった。

居住地別で見ると、「不満傾向」が最も多かった「市役所本庁の利用のしやすさ」(34.6%)では、「八田地区」の「不満傾向」は44.9%で、全体を10.3ポイント上回った。「市役所支所の利用のしやすさ」(20.7%)では、「芦安

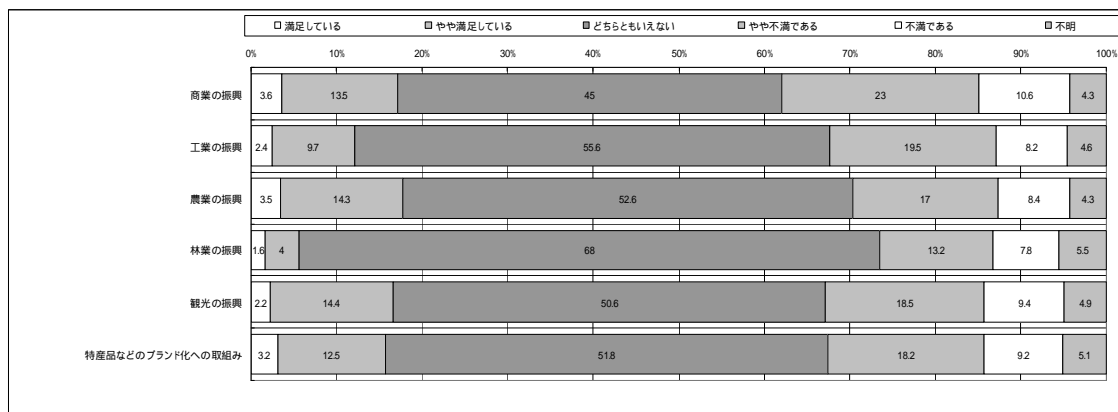
地区」(44.4%)の「不満足傾向」は、全体を23.7ポイント上回った。「市役所、消防本部、企業局等の窓口対応」(19.2%)では、「八田地区」(30.4%)の「不満足傾向」は、全体を11.2ポイント上回った。

なお、今回と前回の調査結果の比較をみると、「満足傾向」が最も増加したのは、「市役所、消防本部、企業局等の電話対応」(7.2ポイント)、次いで、「市役所、消防本部、企業局等の窓口対応」(5.9ポイント)の順であった。

一方、今回と前回の調査結果で、「不満傾向」が最も増加したのは、「市役所本庁の利用のしやすさ」(7.4ポイント)、次いで、「市役所支所の利用のしやすさ」(2.0ポイント)の順であった。

区分 10 産業の振興に関する満足度について

図表 10 産業の振興に関する満足度について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

産業の振興に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「農業の振興」(17.8%)、次いで、「商業の振興」(17.1%)、「観光の振興」(16.6%)の順であった。

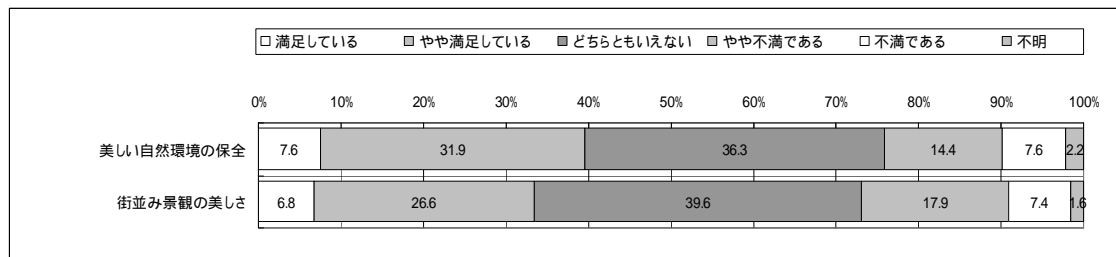
居住地別で見ると、「満足傾向」が最も多かった「農業の振興」(17.8%)では、「櫛形地区」の「満足傾向」は19.2%で、全体を1.4ポイント上回った。「商業の振興」(17.1%)では、「櫛形地区」(18.5%)の「満足傾向」は、全体を1.4ポイント上回った。「工業の振興」(12.1%)では、「甲西地区」(18.2%)の「満足傾向」は、全体を6.1ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「商業の振興」(33.6%)であった。次いで、「観光の振興」(27.9%)、「工業の振興」(27.7%)の順であった。

居住地別で見ると、「不満傾向」が最も多かった「商業の振興」(33.6%)では、「芦安地区」の「不満傾向」は38.9%で、全体を5.3ポイント上回った。「観光の振興」(27.9%)では、「八田地区」(34.8%)の「不満傾向」は、全体を6.9ポイント上回った。「工業の振興」(27.7%)では、「芦安地区」(38.9%)の「不満傾向」は、全体を11.2ポイント上回った。

区分 11 自然・景観に関する満足度について

図表 11 自然・景観に関する満足度について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

自然・景観に関する満足度を尋ねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた「満足傾向」が最も多かったのは、「美しい自然環境の保全」(39.5%)、次いで、「街並み景観の美しさ」(33.4%)の順であった。

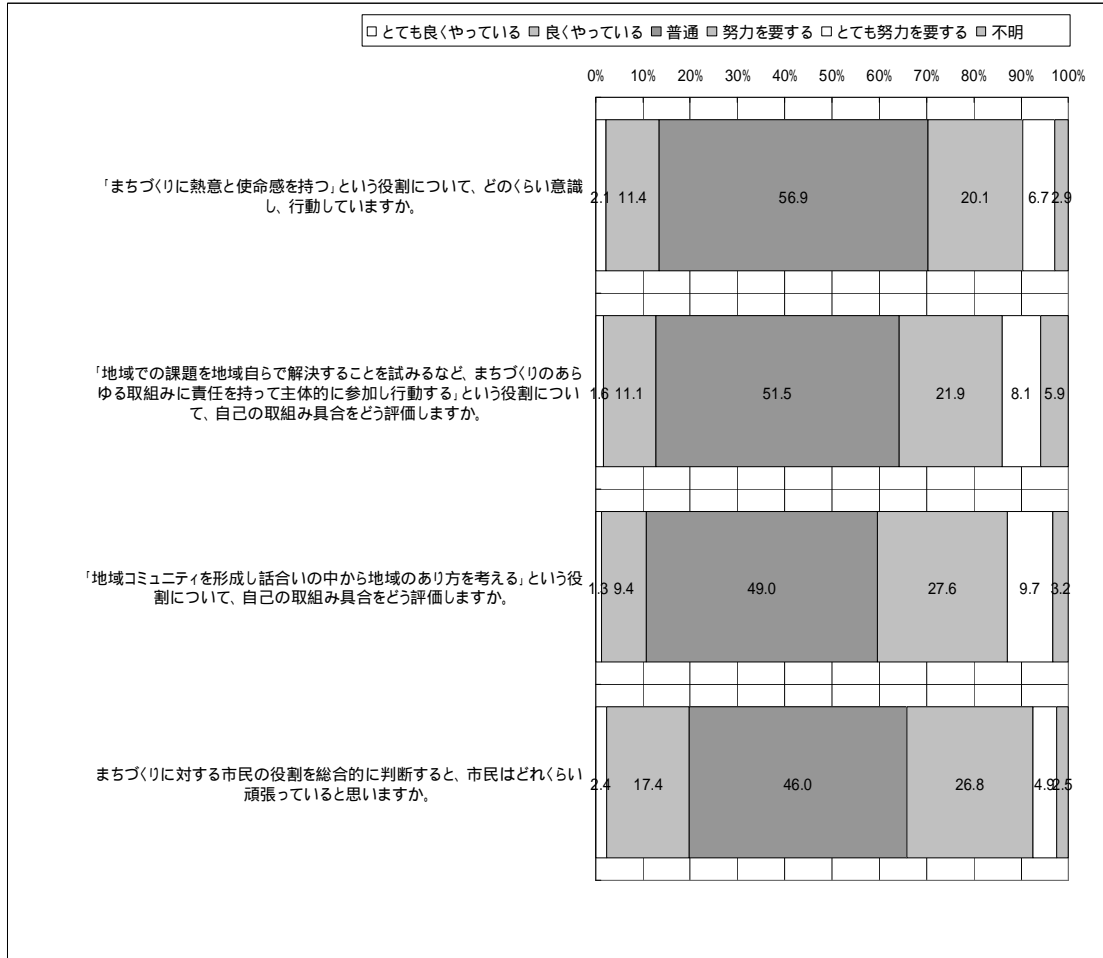
居住地別でみると、「満足傾向」が最も多かった「美しい自然環境の保全」(39.5%)では、「櫛形地区」の「満足傾向」は56.9%で、全体を17.4ポイント上回った。「街並み景観の美しさ」(33.4%)では、「櫛形地区」(47.7%)の「満足傾向」は、全体を14.3ポイント上回った。

一方、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満傾向」が最も多かったのは、「街並み景観の美しさ」(25.3%)であった。次いで、「美しい自然環境の保全」(22.0%)の順であった。

居住地別でみると、「不満傾向」が最も多かった「街並み景観の美しさ」(25.3%)では、「白根地区」の「不満傾向」は30.4%で、全体を5.1ポイント上回った。「美しい自然環境の保全」(22.0%)では、「若草地区」(28.3%)の「不満傾向」は、全体を6.2ポイント上回った。

区分 12 市民の役割に関する取組み具合について

図表 12 市民の役割に関する取組み具合について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

市民の役割に関する取組み具合を尋ねたところ、「とても良くやっている」と「良くやっている」を合わせた「実行傾向」が最も多かったのは、「まちづくりに対する市民の役割を総合的に判断すると、市民はどれくらい頑張っているか」(19.8%)、次いで、「まちづくりに熱意と使命感を持つ」という役割について、どのくらい意識し、行動しているか」(13.5%)の順であった。

年齢別で見ると、「実行傾向」が最も多かった「まちづくりに対する市民の役割を総合的に判断すると、市民はどれくらい頑張っているか」(19.8%)では、「60才以上」の「実行傾向」は28.3%で、全体を8.5ポイント上回った。「まちづくりに熱意と使命感を持つ」という役割について、どのくらい

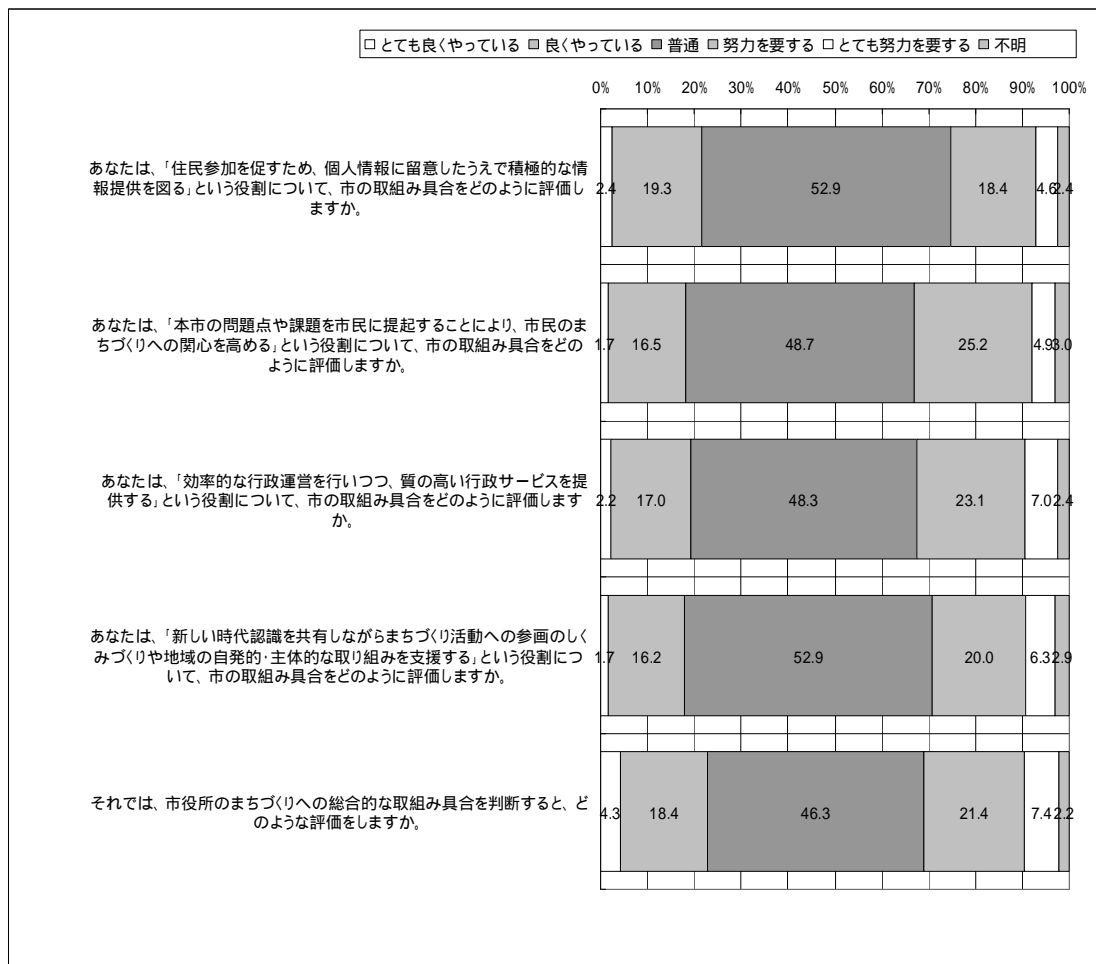
意識し、行動しているか」(13.5%)では、「60才以上」の「実行傾向」は21.0%で、全体を7.5ポイント上回った。

一方、「とても努力を要する」と「努力を要する」を合わせた「要努力傾向」が最も多かったのは、「「地域コミュニティを形成し、話合いの中から地域のあり方を考える」という役割について、自己の取組み具合をどう評価するか」(37.3%)であった。次いで、「まちづくりに対する市民の役割を総合的に判断すると、市民はどれくらい頑張っているか」(31.7%)の順であった。

年齢別でみると、「要努力傾向」が最も多かった「「地域コミュニティを形成し、話合いの中から地域のあり方を考える」という役割について、自己の取組み具合をどう評価するか」(37.3%)では、「60才未満」の「要努力傾向」は41.6%で、全体を4.3ポイント上回った。「まちづくりに対する市民の役割を総合的に判断すると、市民はどれくらい頑張っているか」(31.7%)では、「60才未満」の「実行傾向」は35.4%で、全体を3.7ポイント上回った。

区分 13 行政の役割に関する取組み具合について

図表 13 行政の役割に関する取組み具合について (SA) n = 631 (単位: %)



[調査結果]

行政の役割に関する取組み具合を尋ねたところ、「とても良くやっている」と「良くやっている」を合わせた「実行傾向」が最も多かったのは、「市役所のまちづくりへの総合的な取組み具合を判断すると、どのような評価か」(22.7%)、次いで、「「住民参加を促すため、個人情報に留意したうえで積極的な情報提供を図る」という役割について、市の取組み具合をどのように評価するか」(21.7%)の順であった。

年齢別でみると、「実行傾向」が最も多かった「市役所のまちづくりへの総合的な取組み具合を判断すると、どのような評価か」(22.7%)では、「60才以上」の「実行傾向」は33.8%で、全体を11.1ポイント上回った。「「住民参加を促すため、個人情報に留意したうえで積極的な情報提供を図る」と

いう役割について、市の取組み具合をどのように評価するか（21.7%）では、「60才以上」の「実行傾向」は32.0%で、全体を10.3ポイント上回った。

一方、「とても努力を要する」と「努力を要する」を合わせた「要努力傾向」が最も多かったのは、「本市の問題点や課題を市民に提起することにより、市民のまちづくりへの関心を高める」という役割について、市の取組みをどのように評価するか」及び「効率的な行政運営を行いつつ、質の高い行政サービスを提供する」という役割について、市の取組み具合をどのように評価するか（同率で各30.1%）であった。次いで、「市役所のまちづくりへの総合的な取組み具合を判断すると、どのような評価か」（28.8%）の順であった。

年齢別でみると、「要努力傾向」が最も多かった「本市の問題点や課題を市民に提起することにより、市民のまちづくりへの関心を高める」という役割について、市の取組みをどのように評価するか」及び「効率的な行政運営を行いつつ、質の高い行政サービスを提供する」という役割について、市の取組み具合をどのように評価するか（同率で各30.1%）では、「60才未満」の「要努力傾向」はそれぞれ34.9%、36.7%で、全体を4.8ポイント、6.6ポイント上回った。「市役所のまちづくりへの総合的な取組み具合を判断すると、どのような評価か」（28.8%）では、「60才未満」の「実行傾向」は33.1%で、全体を4.3ポイント上回った。